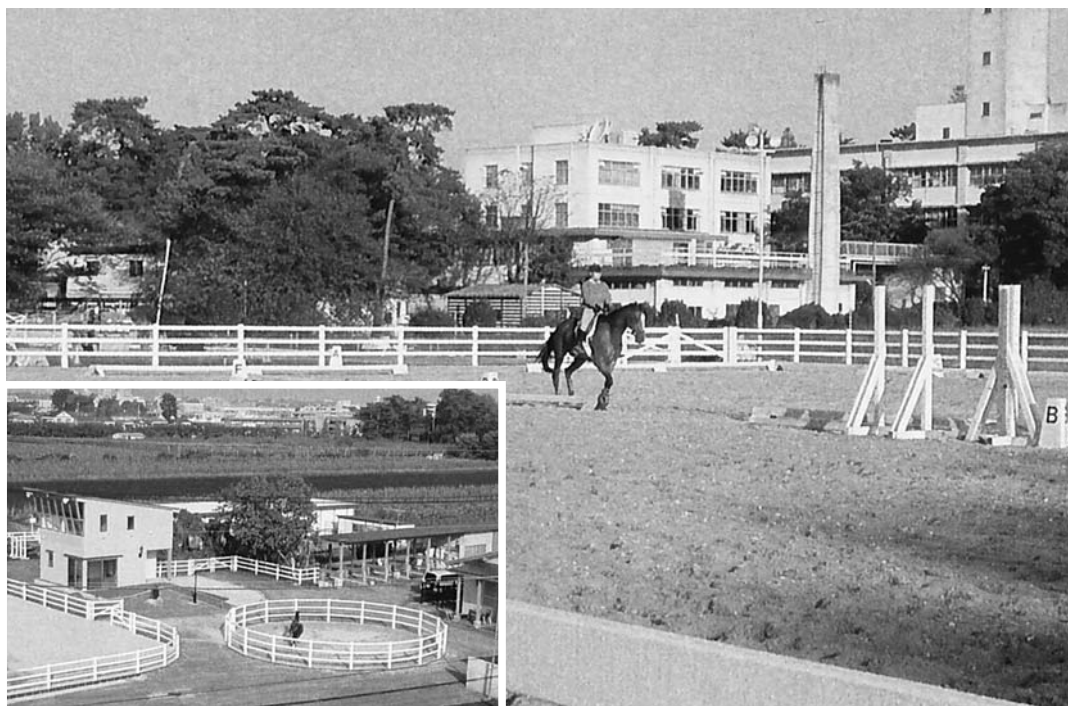




農工通信



第74号



平成16年9月に、府中キャンパスに新設された馬事施設。府中市計画道路の補償工事として完成しました。厩舎(馬18頭収容)、馬場(45m x 75m)、円馬場(直径10m)、洗い場(5頭分)、飼料庫、糞置き場および馬科学教育研究棟から成ります。近代的で、馬にも人にも優しい立派な施設です。

このたびの新潟県中越地震による被災地の同窓会員の皆様には
心よりお見舞い申し上げます。

も く じ

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| ○ 同窓会室完成の報告とお礼 …………… 2 | 卒業50周年記念・草木紀行…………… 9 |
| ○ 学生援助事業について …………… 3 | ○ 掲示板 |
| ○ 学園だより | H17年度版同窓会名簿について …………… 9 |
| ABU ロボットコンテスト Best 4 入賞 …… 4 | 慶弔……………10 |
| ITS 研究開発の取り組みについて …… 6 | ○ 事務局だより ……………10 |
| ○ 部会・支部・クラス会だより …………… 7 | ○ 編集後記 ……………10 |
| ○ 同窓だより | |

同窓会室完成の報告とお礼

前事業副部長(施設担当) 久 保 隆 文 (林産S43)

私たちが長い間待ち望んでいた同窓会室が、この度(2004年2月27日竣工)完成しました。歴代の事務局スタッフの皆さんは、長年にわたり、手狭で薄暗い旧事務室で会務を続けてきたわけですが、この4月から、広くて明るい新事務室に引越しをしたところです。ヒノキがほのかに香るこの事務室が同窓会および(財)後援会の新事務局室となります。同窓会室の建設に当たっては、第40回総会で確認されました、15年度事業計画の同窓会資金(特別会計予算33百万円)で完成することができました。今日まで同窓会室建設のためにご高配をいただきました同窓生の皆様に厚くお礼申し上げます。新同窓会室は大学本部の敷地内にあり、理事会や役員会に利用される会議室(約31㎡)と事務室(約40㎡)が主な施設です。延べ面積は約100㎡とそれほど広くありませんが、一昨年(2002年)に建てられた50周年記念ホールと従来からあった武蔵野荘(ラウンジ、宿泊施設)が隣接し、それらが建物として一体化した形になっておりますので、大人数の催しにも利用することが可能です。5月末には、新同窓会室のお披露目を兼ねて、同窓会室、50周年記念ホール、武蔵野荘を使って本年度の同窓会総会後の懇親会が開催されました。新同窓会室の出来映えについて、参加者からは「概ね良い」との評価をいただいたと思っています。

新同窓会室の建設が同窓会総会で承認されてから、高橋総務部長を中心に関係各位が幾度となく検討を重ね、「東京農工大学の同窓会室として特徴あるもの」をコンセプトに、壁や床に農学部附属演習林(現在はフィールドサイエンスセンターに改組)産の木材を使うことにしました。完成した同窓会室の壁や床には草木演習林(現在はフィールドミュージアム草木に名称変更)から切り出した約100年生のヒノキ材とシオジ材が使われています。特に会議室にはシオジ材(壁)、ヒノキ材(床)がふんだんに使われ、さらにシオジ材で造られた厚み約6cmの大テーブルが事務室の中心に据えられています。演習林産の貴重な銘木を使ったことによって、会議室らしい落ち着きと重厚さがにじみ出て、母校大学の同窓会室にふさわしい趣が感じられます。

同窓生の皆さんが同窓会室を訪ねて来られたと



会議室：演習林産のシオジ材が壁とテーブルに、ヒノキ材が床に使われています

きに、まず目につくのは同窓会室の玄関に掛けてある「東京農工大学 同窓会・後援会」の大きな表札だと思います。これもまたは草木演習林産の無垢のヒノキ材で作られています。さらに玄関に入りますと、上がり口の左壁に「玄関壁材、事務室・会議室床材および壁材、会議室テーブルには本学農学部附属フィールドミュージアム草木(演習林)のヒノキおよびシオジを使用しています」と書かれた銅板が目に入ります。

このように面目を一新した同窓会室となっておりますので、是非お立ち寄りいただければと存じます。

この同窓会室の建設には、同窓生以外にも多くの方々の協力をいただきました。設計・施工にご尽力をいただいた東京農工大学施設課、そしてシオジやヒノキの伐採・搬出から製材に至るまで多大な協力をいただいたフィールドサイエンスセンターに心からお礼申し上げます。とりわけ飯坂前施設課長には、同窓会からのさまざまな無理難題に真摯に対応していただき、お陰をもちましてこのような立派な同窓会室を建てるのが出来たものと感謝しています。会議室入口の大黒柱の取り付けや大テーブルの製作など、建物の端々に一生懸命に対応していただいた行跡が見られます。

ご協力、ご支援をいただいた方々に、改めて感謝申し上げます。同窓会室完成の報告とお礼に代えさせていただきます。

学生援助事業について

事業部長 淵 野 雄二郎 (農S43)

学生援助事業の拡充の意義

同窓会の財政基盤は会員の会費収入(入会金、年会費及び賛助会費)で成り立っています。とくに賛助会費の一部が、毎年、経常会計に繰り入れられて本会の財政運営を支えています。この賛助会費というのは、ご承知の通り、入学時に、保護者のご理解を得て納入いただくもので、卒業時に正会員になるときに「終身会費」に切り替えることにしています。したがって、会としては、在学中のうちには、保護者との関係を大事にし、「農工通信」をお届けして大学の様子などをお知らせする活動のほか、母校援助の一環として、大学院生および学生の学園生活を支援する事業を行ってまいりました。

しかし、これまでの援助事業の仕方は、学生部の申請に基づき、一定の予算を計上し、同窓会より一括して学生部に交付し、その交付金を学生部学生課が窓口になり、学生団体と交付ルールを協議して配分するというやり方でした。もちろん、その結果については、毎年、学生課から報告を受けてきましたが、交付金を学生がどのように使用し、本当に意味のある援助になっているかどうかについては吟味することはありませんでした。

昨年度の常務理事会ではこの支援事業のあり方について見直し、拡充する方向で検討することにし、平成16年度総会で援助金の増額が了承され、在學生に同窓会の存在をよく知ってもらい、母校援助の一環として意義のある支援事業にして、保護者にもっとアピールする工夫をすることを今期の常務理事会に引き継ぎました。

新しい学生援助事業

学生部学生課の学生援助事業は、学園祭およびサークルという団体への交付で、現金支給ではなく団体から必要な物資のリストをあげてもらい現物で支給するという方式でした。

新しい学生援助事業では、従来の学園祭およびサークルへの援助は引き継ぎ、それに加えて、学

部生や大学院生の学会発表、種々のコンテストやコンクールへの出場、学科の選考による優秀卒業論文表彰を行うことにしました。本学に在籍する学生および大学院生であれば誰でも申請できることにしました。ただし、学園祭およびサークルは代表者が、学科表彰は学科主任が申請することになっています。援助内容は以下の通りです。

- イ) **学会発表**：本学を中心にして岩手県・秋田県以遠、または、四国を含む鳥取県・広島県以遠の国内で開催される学会等において、本学学生が演者として発表する場合、当該学生に年1回を限度として3000円を援助します。
- ロ) **研究および技術開発等のコンテストやコンクール出場等**：本学学生が出場する場合は、当該学生に年1回を限度として5000円、ただし、2名以上の団体の場合は1万円を援助します。入賞した場合は、1万円を授与します。
- ハ) **優秀卒業論文**：学科で優秀卒業論文の表彰を行う場合、副賞を授与します。

- ニ) **課外活動**：学園祭援助金(両学部実行委員会に各10万円支給)、サークル活動援助金(1サークル4万円、年1回、7サークル)、サークルリーダーズトレーニング研修会の講演謝金(1回×1人2万円)を援助します。

以上の事業内容について、年2回の募集期間(前期；募集から7月15日まで、後期；募集から3月5日まで)を設け、学生部掲示板、工学教育部厚生係掲示板および同窓会ホームページを通じて公募(申請書は同窓会ホームページからダウンロードして利用できる)することにしました。

すでに、前期の援助事業は終了しましたが、学会発表援助には14名が応募しており、授与された大学院生にはおおむね好評であり、「金額の多寡ではなく学会活動に同窓会の援助が向けられたこと」の意義が評価されているようでした。さらに後期の実績を踏まえて次年度以降も交付金額の増額を含めて継続・充実の方向で検討していきたいと考えています。

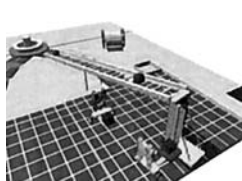
学 園 だ よ り

ABUロボットコンテスト Best 4入賞

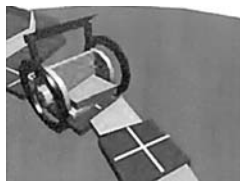
東京農工大学 ロボット研究会 R.U.R 第九代会長
機械システム工学科4年 篠原 俊太郎

R.U.Rは7月11日に代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われたABUロボットコンテストに参加しBest 4に入賞、アイデア賞をいただきました。ABUとは「Asia-Pacific Broadcasting Union」の略称で、本大会の正式名称は「NHK 大学ロボコン～ABU アジア・太平洋ロボコン代表選考会～」といい、ABUロボコン世界大会の日本代表を決める大会です。

本大会に農工大代表として総勢15人参加しました。そのほとんどが機械システム工学科です。前年の10月に始まり翌年の7月に終わるという大会期間の都合上4年生や1年生の参加が難しく4年生が2人、3年生が10人、2年生が3人で製作しました。1台のロボットを回路製作やプログラミングをする電気屋が1人と本体をつくる機械屋1～2人で製作します。大会に参加するためにはまず、書類審査に合格しなくてはなりません。ここで約80チームから20チームに絞られます。書類審査では戦略、アイデア、技術要旨、設計図面などを盛り込み、テレビ写りとして見栄えなどのパフォーマンスが優先されます。R.U.Rからも3通の書類を提出しました。枚数にして70ページありCADやパワーポイントはもちろん、CGまで用います。この時ばかりは工具も持たず、ひたすらデザインと会議に明け暮れました。



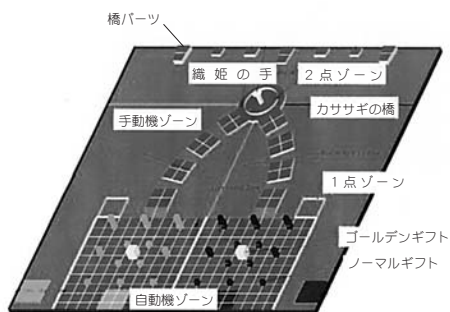
書類審査時のマシン全体 CG



手動機イメージ CG

書類審査に通過したらよいよ製作です。マシンは機体(=ハード)、回路、プログラムのどれが欠けても動きません。常に進行のバランスをみながら、しかし勝つためには全体の作戦そのものを変えることを怖がらず、作っては壊しよりよきマシンにしていきます。各マシンができたなら他のマシンとの協調動作、戦術にバリエーションを持たせるためのパターン作成など改良を加えます。

今回のテーマは「織姫と彦星」ということで、ロボットが天の川に橋をかけて彦星からのプレゼントを織姫に渡すという趣旨でした。ロボットは1台の人がリモコンで動かす手動マシンと、複数台の1度しかスイッチの押すことの出来ない自動マシンで構成され、総重量は50kg、スタート時には1200×1200×1500に収まっていないと決められています。自動マシンが、手動マシンによって完成される「カササギの橋」を渡って「織姫の手」と呼ばれるテーブルにギフトを手渡すことにより勝利となります。

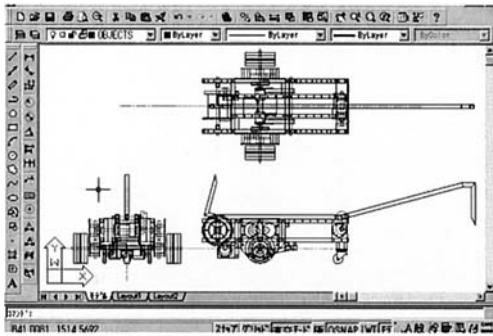


競技フィールド俯瞰図

競合する相手と競り勝つためには重さが重要となりレギュレーションぎりぎりにつくることとなります。そのためマシン強度が安全率1以下になる時もよくあります。いかに重量とサイズを各マシンに配していくかがポイントとなります。

今回農工大のロボットの特徴は大会に参加した20大学の中でもトップクラスの速さを誇る手動マシンです。走行スピードもさることながら、カササギの橋を完成させるために必要な「橋パーツ」の取り込み、打ち出しの動作も確実かつ高速で他大学の手動マシンを圧倒しました。

また全フィールドを出来る限り再現し、自動機も5台という大会中最多数のマシン台数をつくりました。この際設計にはCADを用い、Trial&Errorを繰り返して何度も作り直します。時には、一日中コースの上でマシンと過ごしたりしますが、そこまで一生懸命になれるのもロボコンの面白さの1つだと思います。



CAD 図面の例

直前になるとNHKの取材クルーがきます。連日の徹夜でみんな「ぐったり」の中10時間近く撮影を行いました。この時期になると進行状況にばらつきが生じるためソリューション部隊が結成され自分担当以外の部分の仕事が多くなります。またハードが出来てくるとプログラムのエラーをようやく見つけることが出来るため、制御担当は大忙しです。夜から朝にかけて廊下や教室に活動場所を移動して実際にマシンを動かしながらプログラムを書き、その過程で出てきた問題をリスト化、その日の昼にハード担当が直すというサイクルの毎日が続きました。

大会前日のテストランになると、照明の関係でいままで動いていた動作が動かなくなったり、コースのアライメントがそもそも違っていたりとデバッグに奔走します。ロボットコンテストは研究と違い3分の試合で動かなくなったら今までいくら動いていても意味がありません。期日が刻々とせまる中、最後の一週間は全員が睡眠時間以外のすべての時間をマシンに捧げました。

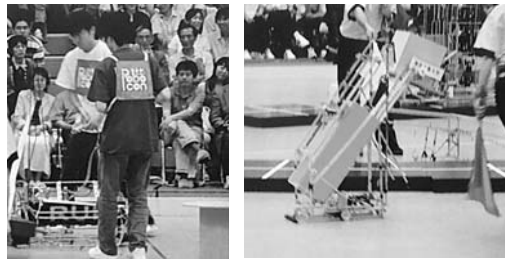
メンバーの1人は「ロボコンは体育です。」と言い切るくらい後半は過酷な生活でした。全員で乗り切れたのは自分達が大学の名前を背負っているというプライドと、半年間連日連夜生活をともに



自動マシン NGM-R



取材の様子



試合中の様子

した信頼できる仲間がいたからだと思います。僕らが大会を通して得たものは「技術」とそれ以上の「信頼関係」です。そして最後の最後は「諦めないコト」、資金・時間・能力、辛くなったら逃げる口実はいくらでもあります。それでも諦めずやり遂げる精神の育成とその努力に応えるチームメイトの存在。この二つなくしてチームとしての勝利はありえないと僕は考えます。

マシンと共に当日を迎え、終えてみれば Best 4, アイディア賞までいただきました。300万円クラスの予算をかけている大学のいる中その1/6程度の予算で成し遂げたこの結果はRURの歴史の中でも快挙です。しかしながら優勝しない限り悔しい思いに違いはありません。これからも今回の反省を踏まえ更なる結果を目指したいと思います。最後になりましたが、資金や活動場所の面でご支援いただきました機友会に感謝申し上げます。今後とも農工大関係各位のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

Group URL : <http://www.tuat.ac.jp/~nur>

注) 機友会とは、東京農工大学工学部機械系学科の卒業生と教職員ならびに在学生の親睦を深め、機械システム工学科の発展を図るために設けられた組織です。



ITS 研究開発の取り組みについて

共生科学技術研究部 吉 田 秀 久(機シスH7)

10月19日から24日まで開催された第11回 ITS 世界会議「愛知・名古屋2004」に今年も参加致しました。今年のテーマは「暮らしやすい社会のための ITS」と題して、安全・環境・利便の3本柱で、従来からの専門家だけの会議に加え、新たに市民参加の見学会やイベント、市民講座など、ITS 体験型のイベントも企画されました。53ヶ国からの1400名を超える海外の参加者を含め、会議参加者が5794人、市民参加が61394人だったそうです。途中台風の影響で1部中止の企画も有りましたが、「次の10年」に突入した ITS の将来について、様々な討議が行われ、役立つ ITS の普及と定着が今後の課題であると思います。

ITS(高度道路交通システム: Intelligent Transport Systems)は、道路交通が抱える事故や渋滞、環境対策など諸問題を、最先端の情報通信や制御の技術、つまり「情報化」と「知能化」により抜本的に解決することを目指したものです。身近な ITS 技術の1つとして実例を挙げますと、カーナビゲーションの高度化においては、渋滞情報を収集し経路誘導する「VICS 機能」があります。また、高速道路での渋滞解消を目的とした自動料金収受システム(ETC)も皆さんお馴染みかと思います。ITS 技術の開発分野としては、上記の2項目に加え、安全運転の支援、交通管理の最適化、道路管理の効率

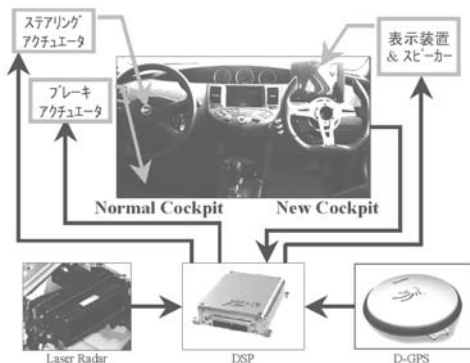
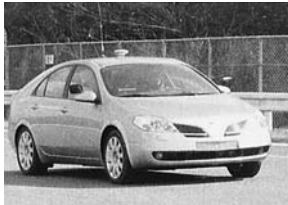


図1 アクティブインターフェイスビークル

化、公共交通の支援、商用車の効率化、歩行者等の支援、緊急車両の運行支援などがあり、多岐にわたる取り組みがなされています。

ここでは少々スペースを頂き、現在わたくし達の研究グループが取り組む「運転支援」研究の一部について、ご紹介させていただきます。

ドライバは、認知・判断・操作という一連の過程を得て走る・曲がる・止まるを実現しています。認知・判断支援に加え、状況に応じた操作支援をおこなうことで、より安全な運転を実現することが運転支援の目指すところです。

特に本研究は、ドライバの運転状況を理解することで、「お節介でなくサボらない」支援を目指しています。警報やディスプレイなどによる各種状況呈示方法や、操舵・制動による操作支援方法を検討するため、図1に示す実験車両を左ハンドル車ベースで試作し、被験者実験により運転支援の効果について評価を行っています。

前方の障害物を発見した際に、例えばブレーキ操作で、衝突を回避する状況があります。現在衝突が避けられない状況下で障害物との距離などを検知し、予め車両側でブレーキをかけることで衝突時の車速を低減し、乗員の衝突被害を軽減するプリクラッシュブレーキが実用化されました。ブレーキ操作では図2に示す一連の動作が行われます。特にアクセルペダルからブレーキペダルへ踏み換え、ブレーキがかかり始めるまでの空走時間が短縮できれば、より手前で停止することが可能となり衝突回避できる可能性が高くなります。



図2 ペダル踏み換え動作

そこで、本研究では障害物との距離等を検出することに加え、ドライバのペダル操作を検出し、危険を判断したドライバの空走時間を短縮するブレーキ支援システムを提案しました。

最後に、本研究は現在継続中の NEDO の受託研究(本学代表: 永井正夫教授)での成果の1部であり、(株)オーテックジャパンをはじめ関係各位に謝意を表します。

部 会 ・ 支 部 ・ ク ラ ス 会 だ よ り

支部・部会

項 目	新潟	群馬	福島	山口	宮崎	岡山	三重	大分
日 時	5月28日	6月27日	7月3日	7月11日	7月17日	8月28日	9月12日	10月9日
開催場所	クオリスビル	伊香保 森秋旅館	福島グリーン パレス	ホテルみやげ	東京庵	ピュアリティ まきび	新玉亭	割烹さとう
支部・クラス	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会
理事派遣	なし	なし	大谷助教授	田谷教授	なし	なし	亀山教授	寺岡教授
参加者数	22名	27名	42名	13名	20名	14名	8名	19名
総会議事	会計報告 役員改選	会計報告 役員改選	事業計画 役員改選	会則の改正 役員再選	事業、会計報告 役員改選	会則改正 役員改選	役員再選	事業、会計報告 役員改選
講演、討論等	懇親会	懇親会	大学の近況 情報交換	大学の近況 「ディーゼル排 気微粒子から 検出された内 分泌錯乱物質」	懇親会	懇親会	大学の近況 情報交換	「独立行政法人 化、大学部局 化と府中キャン パスの近況」 「イネは地球 を救えるか」

▶ 新潟県支部



◀ 群馬県支部



▶ 福島県支部



◀ 宮崎県支部



▶ 岡山県支部



◀ 三重県支部



▶ 大分県支部



クラス会

項目	けやき会	フサク会	二八会	拡大クラス会	50周年記念の集い
日時	5月20日	5月20, 21日	6月18日	9月4日	9月15日
開催場所	50周年 記念会館	紀伊見荘	箱根湯本	京の宿洛兆	小金井キャンパス
支部・クラス	S29 林学科卒	S39 工業化学科卒	S28 製糸科卒	S40 製糸, 繊維工学卒 S41 製糸卒 有志	S29 繊維学部卒 (養蚕, 製糸, 繊維 工学, 繊維化学)
参加者数	22名	26名	10名	19名	25名
実施事項	大学訪問 情報交換 観光	高野山観光 ゴルフ大会	情報交換 親睦	情報交換 親睦	情報交換 親睦



▶けやき会



◀フサク会



▶二八会



◀拡大クラス会



▶50周年記念の集い

東京農工大学繊維学部卒業50周年記念の集い



同窓だより

卒業50周年記念・草木紀行

岸 一 衛 (林S28)

私達は、昭和24年東京農工大学が発足した時に、農学部林学科に入学し、28年に卒業をした。平成15年は、卒業50周年という、意義ある年であったのだ。今では皆、古稀を越えて大半の者が現役を退いている。30名の同期の中で、残念ながら8名は幽明境を異にした。

この春に有志が集まった際、記念行事のことで意見を出し合った。そして「草木の演習林を訪れよう」と話がまとまった。

——同演習林は、群馬県東村にあり、面積約200ha。学生は宿舎に泊り、林業の実習を行う場所であった。時代は移り、草木湖建設のため、宿舎は取り払われ敷地は湖底に沈んだ。

ダム本体は、昭和51年に完成した。堤高140m。貯水量は6千万m³で、首都圏の重要な水がめとなっている。——

平成15年10月23日、参加者11名は、旧国鉄足尾線、今のわたらせ渓谷鉄道に乗り、本宿駅で下車し、『きじの宿・梨木館』に泊まる。

翌日、借り上げたマイクロバスに乗り、国道122号線を快適に走る。

東村、神戸(ごうど)にある『農工大フィールド・ミウジウム・大谷山』に着く。

入口の左右に御影石の門柱が立っている。忘れもしない、我等が学生時代に草木宿舎の前であったものだ。右側には『東京高等農林学校』、左側には『草木演習林寮』と刻まれている。感激の一言につきる。

移転先のここには、鉄筋コンクリート建の立派な事務所と宿舎がある。職員の方から、演習林の

様子や実習状況の説明を伺う。学生の半数が女性であると聞き、一瞬耳を疑う。

さて、バスは富弘美術館に向う。草木湖で一番の観光地なのだ。作品の絵や詩は、見る者をして感動させられる。

庭からは、草木湖対岸の景色が一望できる。山々が連なり紅葉が始まっている。

「演習林は、あのあたりだ」

「宿舎は、あの沢の左側だったのでは」

皆で指をさしたり、うなずき合ったり。

思い出すと、私達が草木に来た頃は、戦後の混乱期であった。神戸駅で降りて、東京から運んできた実習機具や、食料の入った重いリックを背負い、列車の通過時刻のあい間を見て、線路の枕木を踏みしめながら、宿舎にたどり着いたものだ。

今は、線路も道も、音をたてて流れていた渡良瀬川も、水面下なのだ。

一同バスに再乗車して、草木橋を渡り左岸に回る。国民宿舎・サンレイク草木の手前で下車し、宿舎跡地を探すため湖岸へと下る。もちろん、昔日の面影は全くない。

各自、湖面下にあの木造平屋建ての宿舎を思い浮かべる。同時に測量の夏目先生、造林の中島先生、製炭の中村先生、案内の小林さん、数々のご指導を静かに回顧する。

卒業して半世紀、今の私達があるのだ。

今では俳句の宗匠、桑田君の詠んだ句を紹介して結びとしよう。

山ぶどう 実習の余暇 ありにけり

掲 示 板

H17年度版同窓会名簿について

平成17年度は本学の同窓会名簿の出版年となります。名簿出版に関しまして、下記のようにお知らせ申し上げます。

1. 名簿発送対象の会員

名簿発送は従来の慣行にしたがい、次のよう

な基準で会員各位にお送りする予定です。

①終身会員

②10年前納会員

③前回の13年度版(13年11月)以降、3ヵ年以上の会費(4,500円以上)を発行月までに納入済みの会員

2. 名簿不要の方事務局までお知らせ下さい。

名簿発行・送付にかかる費用は莫大です。上記条件を満たす会員で名簿不要の方は、前もって事務局までお知らせいただければ幸いです。

3. 名簿へ掲載の広告を募集いたします。

平成13年度版から広告を掲載するなど、名簿発行のための費用の削減に努力しております。平成17年度版はこれまで以上の広告掲載を予定しておりますので、同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。種類、価格、同窓生割引など詳細につきましては、同窓会 Web にてお知らせいたしますが、事務局へのお問い合わせも可能です。

4. 現役を退かれた同窓生の皆様に

現役を退かれた方のために、平成17年度版の勤務先欄に「元〇〇株式会社」と代表的なもののみ(社名のみ)を掲載いたします。希望の方は、事務局に動静はがきあるいは e-mail にてお知らせください。なお、希望者が非常に多く、データベース入力量が処理能力を超えた場合など断念することもありますので、ご了承ください。

名簿編集委員長 額綱明伯(工化S47)記

慶 弔

慶 事 お祝い申し上げます。

内閣府副大臣就任

西川 公也 (農工S40)

林田 彪 (林S42)

平成14年 春の叙勲

石田 里司 (農S26) 勲四等瑞宝章

弔 事 ご冥福をお祈りいたします。

行方 文吾 名誉教授

大平 芳人 (林S17) 元福島県支部長

伊藤 佳央 (物生H9) 本学教員

事務局だより

▼平成17年度版会員名簿編集と会員動静はがき

次回会員名簿発行予定は、平成17年11月となっております。この名簿には、会員住所等新しい情報を掲載したく存じます。来年の異動がありましたら、今回同封の動静はがきにて、17年5月31日までに、当事務所に必着するようご手配いただきたく、改めてお願い申し上げます。詳細につきましては「掲示板」をご覧ください。

▼事務局よりお願い

同窓会成立の経緯等について、整理し、記録にとどめておきたいとの計画があります。その一つとして、校歌、寮歌、学科の歌等の収集、特に、楽譜の収集を行ないたいと思います。関連の資料がありましたら、事務局まで、ご連絡して頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

▼同窓会事務局、年末・年始休業のお知らせ

今年の年末・年始休業は、平成16年12月27日～17年1月7日とさせていただきます。ご案内申し上げます。

編集後記

新潟県中越地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。布施康正支部長あてにお見舞い状を送らせて頂きました。

巻頭は今年リニューアルした馬場の写真で飾りました。11月12～14日に開催された農工祭では、子供達に乗馬体験をさせる企画も催され、大変好評だったようです。研究力が全国の大学で第5位にランクされるなど、最近の農工大はまさに昇竜の勢いですが、このようなアットホームな雰囲気を保ち続けることも、地域に貢献する大学として大切なことかと思えます。

(桑原利彦 記)

同窓会のホームページをリニューアルして1年が経過しました。月平均で約310名の方にアクセスして頂いています。その内、7割の方が初めての訪問者です。国立大学法人となり、今まで以上に産官学の連携が望まれ、ますます同窓会員の方々とのつながりが重要となっています。ホームページを通じた会員相互の情報交換にお役に立てれば幸いです。詳しくはホームページをご覧ください。

(滝山博志 記)

農工通信 第74号

平成16年(2004年)12月1日
 発行所 東京農工大学同窓会
 連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1
 東京農工大学同窓会事務局
 〈TEL 042(364)3328〉
 〈FAX 042(335)3500〉
 e-mail: dosokai@cc.tuat.ac.jp
 http://www.tuat.ac.jp/~dousou/
 振替口座 00120-9-93147番(加入者負担)
 加入者名 東京農工大学同窓会